

## 平成21年度第2回富士見市生涯学習推進市民懇談会会議録

日時 平成21年11月24日(火) 10:00~12:00  
場所 中央図書館 集会室  
出席者 ○市民懇談会委員

委員長	副委員長				
小塚	荻島	岩田	岡本	桐生	佐藤
○	○	○	○	○	○
清水	田中	鳥澤	森本	横田	我彦
○	○	○	○	○	○

○事務局

【市民生活部】金子副部長

【協働推進課】山岸課長、谷口、吉野

【生涯学習課】会田課長、高見

1. 開会あいさつ 小塚委員長

2. 議題 議事進行 小塚委員長

(1) 報告事項

①生涯学習推進委員会及び作業部会について

・資料に基づき、事務局より説明

⇒質疑なし

②全国生涯学習フェスティバルについて

・資料に基づき、事務局より説明

⇒質疑なし

(2) 協議事項

次期生涯学習推進基本計画の策定にむけて

①学習情報の整備について

②学習機会の整備について

・資料に基づき、事務局より説明

委員長) 討論の進め方について、資料の順番に沿って進めていく方法でよろしいか。 → 各委員了承

それでは、資料3-1の中柱1情報の収集・提供の充実について、意見をお願いしたい。

委員) 印刷物による情報提供について、市の印刷物については良く出来

ており、広報紙等についてもきめ細かく情報を伝えている。問題は、情報はたくさん出ているが、市民がいかに情報を捕まえるか、捕まえられるようになっているのか、だと感じている。

委員) 市民活動情報の収集・提供について、市内の情報が優先されてくると思うが、市外の活動でも良い事例があるので、市民に有益なものは提供した方が良い。ある会合で当市のマラソン大会の参加者は数百人であるが、隣の市では何万人も参加しているとの話が出ていた。運営方法等の隣の市の情報が活用できれば当市でも参加者の増員が可能になると考える。

委員) 情報の分野別整理と提供方法について、図書館の本の分類のように体系ごとに分けて簡単に必要な情報にたどり着くようにというものなのか。

事務局) 作業部会では、公民館等の窓口・ラックにおいて印刷物を文化やスポーツ等に体系的に区分けし、市民が情報にたどり着きやすくするというイメージで考えている。

委員) 簡単に検索できるようになるとわかりやすくなる。

事務局) 参考として、キラリ☆ふじみや子育て関係については専用のラック等を整備し情報をまとめて提供しているが、それ以外については施設ごとにはなっているものの、ばらばらに置いてあるように見えてしまっている。

委員) 市外の情報収集については賛成である。また、情報コーナーの充実として、駅等への設置については市外の人に当市をPRする機会にもなる。当市の歴史・文化についての案内や子どもフェスティバル等のチラシを置くことは市を知ってもらう意味でも良いし、市民のやる気にもつながる。

委員) 情報収集・提供の拠点整備について、次期計画では、この点がポイントになると考える。情報の共有化を進める意味でも情報の一元化・センターの設置は必要である。現在、行政は具体的に設置を考えているのか。進捗状況を教えていただきたい。

事務局) 現在のところ、具体的な予定はない。作業部会で必要との意見が出れば推進委員会に報告し、推進委員会でさらに検討して計画に盛り込むのか判断いただくこととなる。

委員) 具体的な計画がないのであれば、柱として前面に押し出して進めていくべきである。団塊の世代の人からは、当市にはすばらしい活動があるということを知る機会はあるが、一元化されていないため自分の求めている活動がどこで行われているのかわからない

という話をよく聞く。以前にイベント情報の一覧等の作成に関わった経験もあるが、生涯学習の取り組みについてどうして一括してわかるものがないのか疑問であり、その部分も含めて検討いただきたい。

委員) センター化し情報を発信することに関しては、上手くいっているところとそうでないところがある。情報を発信する力があるのが大事であり、その場所自体が愛着のある活動場所・開かれた場所になっているかが重要である。新たな箱物の設置は困難であると思うが、いろんな人が集まり活動する姿・雰囲気を見せることが大切であり、そのような場づくりが必要。他市の例では、学校の空き教室を利用し多世代が集まる開かれた場所としているケースもある。単に情報を集約し効率的に発信するだけではなく、活動が持つ情報発信の力の活用が必要である。他地域では、市民白書の作成に取り組んでいるところもあり、市民が情報を集約して発信するという活動を行っている。市民が地域の情報を知る、発信するという、その活動自体が生涯学習にもなっている。

委員) 印刷物の具体例として、三芳町の生涯学習情報誌があり、こちらは生涯学習情報が分野別にコンパクトにまとまっているので、学習情報を掴むには良いやり方と考える。ただし、発行するにはセンター的な役割を持つ場所やそれなりの労力も必要になる。

委員長) 続いて、資料3-1の中柱2の相談体制について、意見をお願いしたい。

委員) 指定管理者制度について確認したいが、管理体制はどうなっているのか。例として、風邪の予防等に石鹸による手洗いを推奨しているが、総合体育館では入口にアルコールは置いてあるものの、トイレに石鹸は全くない。職員の資質向上等の意味も含めて管理体制はどうなっているのか。また、市民からでた要望に対して行政側から伝える手段はあるのか。

事務局) 市民から要望があれば指定管理者に事実の確認・指示を行う。また、モニタリングを定期的に行っているので、随時状況を確認し、改善が必要であれば指示を行っている。

委員) 各施設での職員の流動化が進むなか職員の負担も大きくなり、相談体制の充実は実際には難しくなっている。職員だけでなく市民への要請・活用も考慮しているのか。

事務局) 作業部会としてもセンターを設置し、相談員・コーディネーターを配置する場合には、職員だけではなくNPOへの委託等を検

討すべきであるとの意見が出ている。

委員) チラシ等には担当名が出ていると思うが、充実・明記させれば、はっきり相談相手があるので、ルールとしての義務付けが必要。そうすれば相談等がスムーズに行われる。

委員) 誰に相談していいかわからない場合には有効である。また、鶴瀬コミセンを普段利用しているが、公民館で利用者にアンケートを取っていた。投書箱では気持ち的に重いので、気軽に意見を聞く体制を整えてもらえると要望が伝えやすい。そういう意味でアンケートは意見を出しやすく良かった。

委員長) それでは、資料3-1の中柱3拠点整備について、意見を欲しい。

委員) 市内の情報に拘らず他市の情報についても、良い情報には積極的に目を向ける必要がある。資料の中に市内という文言が度々使用されているが、市内全域及び他市の有益な情報提供とする等、市外にも目を向ける心構え・機運が必要である。

委員長) 行政に求めていく視点と市民側で進めていく視点と両面の追求が必要という発言が多くあがっていたと感じる。また、広報の12月号で市民意識調査の結果が掲載されていたが、生涯学習の課題等をどのように分析し、どのように役立てていくのか。

事務局) 今回の市民懇談会で課題の解決にむけてどのような取り組みが必要か、ご提言いただくことが一番有効と考えている。また、平成23年度からスタートする第5次基本構想の策定にむけて市民意識調査を実施し、市民ニーズの把握にも市として努めている。今回初めて「生涯学習」という文言がアンケートに記載されたが、市全体に関わる質問構成であるため、生涯学習に関しては1項目に限定されてしまい人材バンク・出前講座に関わる質問のみとなっている。調査結果としては、人材バンク・出前講座の認知度がまだまだ低く、公民館等を利用している人には情報が届いているものの、利用しない人には届いていないということが判明した。また、基本構想との関係でも当懇談会の委員の中にも基本構想の教育部会の市民委員になられている方がおられるが、両者の委員会で連携を取りながら課題の解決にむけて取り組んでいきたいと考えている。

委員長) それでは、資料3-2の中柱1ライフステージに応じた学習機会について、意見を欲しい。

委員) ライフステージの区分けについて、年齢的にどのように分けてい

るのか。年齢構成に応じて議論も変わってくると思われるが。

事務局) 作業部会で議論した結果、年齢構成は概ね次のとおりに想定。

子育て期：小・中学生までの子を持つ親を対象、青少年期：小学校～高校生ぐらいまで、成人期：社会人、高齢期：退職後

ただし、大学生等も含めて明確な線引きが難しくグレーゾーンが生じてしまうのはやむを得ないとの結論に達しており、大まかな流れとして理解いただきたい。

委員) それぞれのライフステージに加えて、世代間交流という縦に貫く視点での項目が必要と思われる。例えば、高齢者の知恵を生かしたり、大人の学びの中に子どもの姿あったりと子どもと大人が交互に活性化して、より力になるような項目として。

事務局) 作業部会でも同様の意見があったが、ライフステージの項目の中でそのような柱立てをするとわかりづらいと考え、あえて世代間で区切り、文言で各項目に盛り込む形にしている。

委員長) 少子高齢化・核家族化等が進むなか、世代間の交流は大きな課題になるので、生涯学習としても強い問題意識を持つことが大事である。

委員) それぞれの項目での意識は強く感じるが、子育て支援の事業のなかで高齢者が参加するとお客様の扱いになってしまう。それぞれの世代が持ちつ持たれつの関係となるような、対等な立場での交流という方向性を掲げた方がわかりやすいと考える。

委員) 生涯学習は一般的には人が集まって活動すると捉えられがちであるが、福祉の面から考えると寝たきりの人はどうするのか。寝たきりであっても俳句や歌を作る等は可能であるので、例えば、難病の人のサークル等を取り上げてもいいのでは。

事務局) 作業部会でも同様の意見が出ており、具体的な方法までは表記されていないが、あらゆる立場の高齢者に対応した学びの中に含めている。

委員) 世代間交流の事例として、児童館の取り組みとして職員と子どもたちが空いている園庭を利用し野菜作りや花壇の設置を行おうとしたが、素人なので上手くいかなかった。それを見かねた近所に暮らす高齢者が土作りを子どもたちに教える等、関わってくれるようになった。児童館がそのまま子どもの事業として高齢者をアドバイザーという位置づけにしたままでは継続して広がらなかったが、世代間交流事業と位置づけを変えたことにより、園庭での野菜作りを通して多世代が交流し、共同で食事会を開催したり、

お祭りの際にブースを出展し育てた農産物の販売を行ったりするところまで発展していった。位置づけの変更に意味があったと考える。

委員) いろんな年齢の人の交流はたくさん行われている。例えば、子ども将棋を教えたりしているし、針ヶ谷小学校では近所の方に教えてもらいながら畑を耕したり、お手玉や鞠つきを教えてもらったりしている。そこをきっかけにして学校以外でも声かけが生じる等、地域の良い関係ができる。サークル等ではどうしても同年代の集まりになってしまうが、その範囲を超えた多世代の関係ができあがり、その中で自分の出来ることでつながれば良いと考える。

委員) お互いに役割があり、先生と生徒の関係ではなく、対等の関係での交流が実施できる。単身の高齢者と子どもたち等の多世代の方に接点ができることで地域が変わっていく。また、技術面の問題ではあるが、子どもの事業に多世代が加わると予算の位置づけが難しくなる。最初から多世代の事業とすればスムーズに進められる。

委員) 子育てについて学ぶとしているが、それぞれに思惑がある。恥ずかしくない大人になってもらいたい等、様々であろう。子育てという大まかな表現ではなく、より具体的に表現されるとわかりやすいと感じる。

事務局) 子育てとは何かという具体的な議論にまでは行っていないが、幼い時期からの学習は先々まで影響するので重要であるとの意見は作業部会でも出ていた。

委員) 学校で生じている問題の話し合いの中に高齢者が加わることで、様々な異なる意見も出てくると思われる。そのような意味でも世代間の交流は必要と思われる。

委員) 学校、家庭、地域と連携した学びについて、大人が目線になっているので生徒の社会参加をメインに加えていく必要がある。大学にはインターンシップがあるが、高校生にも社会に入る形を整えていく必要がある。(部活であれば可能か) 大学との連携について、大学は知識の宝庫なので有効に活用した方が良い。また、青少年期の取り組みが弱いので、意欲を高めるため損得勘定を絡め、資格取得を利用する方法もある。その際に大学を活用すると良い。事例として、ふじみ野国際交流センターでは、大学と提携して外国人に2級介護の資格を取得させた。また、宮代町では日本工業

大学との協定推進会議をつくって提携を進め、大学のノウハウを市に還元してもらっている。大学の先生達のノウハウをまとめてナレッジバンクを作成しているところもあるので、大学との提携を深めて市の発展につなげていく必要がある。

委員長) 市は淑徳大学と業務提携を行っているが。

事務局) 市では淑徳大学と協定を結んでいる。お互いに提案し、協議を進めて可能な事業を実施している。また、淑徳大学以外でも企業やNPOと災害時の協定を締結したりもしている。市内には大学がなく進展がなかったが、現在は市外の大学でも進んでいる。

委員) 大学等の提携に費用はかかるのか。

事務局) 講師を依頼した場合には講師料、演奏等を依頼した場合には謝礼等の費用が生じるが、提携の中身次第である。

委員) 地域子ども教室等は地域の人が学校で活動する内容であるが、学校からも地域で発表する機会が必要である。富士見台中学校が鶴瀬西祭りのよさこいに出演していたことを知り、地域の一員として実感でき、集団生活を通してコミュニケーションも生まれ、社会性も育む、とても良いことであると考え。このような体験を通して社会人になっても地域活動に対する関心が高まるし、小・中学校から地域に向けて発表を行うことでお互いの理解も深まる。

事務局) 資料の中では、地域の一員であることを実感したり、自主性、社会性を育む学びとして、触れているところでもある。

委員) 西交流センターフェスティバルでも西中学校のブラスバンドがオープニング演奏を行った。生徒たちが自分たちで楽曲を発表する等、学校側からも良い経験になったと言われたし、学校と地域とお互いにプラスになるような取り組みは意識的に実施していく方が良いと考える。

委員) 市民意識調査に初めて生涯学習が入れてもらったとのことであるが、どの程度成果が上がったのか、問題点は何か検証するシステムが計画を推進するうえで必要になると考えるが。

事務局) 計画づくりの中では調査費用は盛り込まれておらず実施は出来ないが、**1,000**人規模のアンケートを行い、**500**人(**50%**)が生涯学習活動に参加していれば次回は**600**人(**60%**)を目指す数値化し確認する方法もある。必要とは考えるが、予算の問題もあり、手持ちでは方法がない状況である。

委員長) 市民意識調査は初めてなので比較することはできないが、客観的に見れば数値的には悲観的な数値ではない。ただし、出された

意見の討議も検証の一つなので全体のまとめの際に明確にした方が良い。

委員) 現代的課題に対する学習機会については、項目立てが難しい部分である。中教審・生涯審等でもここにある各項目が取り上げられているが、計画に具体性を持たせるのは難しい。そのため、地球環境等の項目を並べるだけになってしまう。生涯審等でも地域で特色ある計画づくりを提案しているところなので、当市でも重点項目を決定したほうが良い。例えば、松本市では福祉と生涯学習をリンクさせて特徴を出している。ここでいう健康づくりを重点化して現代的課題に読み替えて計画づくりをしていく等、具体性を持たせて組み立てた方がよい。

事務局) 環境をはじめそれぞれの分野で基本計画・条例等があるので、生涯学習とリンクさせて考えていく方法もある。生涯学習であれば計画のネットワーク化が可能であり、それぞれの計画と絡めて実現を目指すという方法があるので検討していきたい。

委員長) 今回の資料でも環境等の項目については取り合えず箇条書きで出したものと認識している。当市として、どう取り組んでいくのか今後の検討が必要である。

時間の都合もありここで終了とするが、今回のテーマで引続き意見等があれば次回にも時間を設けるので再度そこで協議をお願いしたい。

### (3) その他

次回の日程

平成22年2月24日(水) 午前10:00～

※ 場所については、中央図書館 集会室で開催

## 3. 閉会あいさつ 荻島副委員長

- 資料
- ・富士見市生涯学習推進基本計画の策定について
  - ・『学びピア埼玉2009』第21回全国生涯学習フェスティバル・報告
  - ・学習情報の整備に関する柱立て(作業部会検討内容)
  - ・学習機会の整備に関する柱立て(作業部会検討内容)
  - ・各市の生涯学習基本計画の施策体系